芸振

大分県芸術文化振興会議会報

県演劇特集号　NO.7　46.7

発行所・大分市大手町　県教育庁文化室内　県芸術文化振興会議事務局
発行人・米田貞一　　編集人・田村卓夫

大分県の芸術文化行政について

芸術性を尊重し豊かな文化の創造をめざす

大分県知事　立木　勝

文化的県民性　かって大分県は、豊の国と呼ばれ、その地理的特性から、中央（畿内）との海路往来が早くから開け、宇佐神宮・国東半島の六郷満山・大友氏の興隆など、政治・文化の面において独自の発展を遂げてきた。そうした文化的資質は、江戸幕府の小藩分立政策による閉鎖時代にも絶えることなくつづき明治日本の指導者、福沢諭吉をはじめ、三浦梅園・広瀬淡窓・帆足万里など思想・学問・官・軍・財界に多数のすぐれた先達を出しており、すくなくとも、文化的には全国一流の県といえよう。

しかし産業面では、石炭資源など持たず、日本の資本主義の急激な発展に対処し得なかったため、農林漁業に依存する後進県の名の下に甘んじながら、県民は、郷土の建設に取り組んできたのが実情である。

県政執行の基本方針　昭和30年木下県政の発足とともに、赤字解消のため県財政の健全化がはかられる一方で、敬老年金制度の創設、〝光と水と医療〟の普及など、県民生活の最低政治線を守りながら、経済基盤確立のために大分地区新産業都市の建設に着手した。すでに九州石油をはじめ、石油化学コンビナートの操業、世界最大級を誇る新日鉄大分製鉄所の来年２月操業を期しての建設、日本の西の食料供給基地をめざす久住・飯田地域の大規模農業開発など、いまや大分県は、新しい展望のもとに飛躍を遂げ、後進県から近代産業県へと生まれ変わりつつある。

このときに当たり、県民大多数の支持を得て知事に就任したことは身に余る光栄であり、その責任の重大さに身の引きしまる思いである。私は県政執行の基本方針として、まず県民生活の安定向上、それを実現する手段として農林漁業の振興、商・工業の発展、そして人間が人間として尊重され、物質的にも、精神的にも、より豊かに生活していくための福祉社会の実現、教育文化水準の向上を期している。特に文化行政については、人間生活そのものの価値を高める芸術文化活動を力強くおしすすめていく所存である。

芸術文化の振興　経済の進展、機械文明の発達する中で、物質的には相当に充実してきたが、世代間の意識の断絶、あるいは社会道徳の低下などがみられる今日、学校教育の充実はもち論、青少年・婦人などを対象とする社会教育の拡充には積極的に努める。また県民体育、スポーツ水準の向上をはかり、明朗誠実な県民性の確立に取り組み、明るくうるおいのある県民生活の実現を期している

特に県芸術祭については、その果たす役割がきわめて大きく、ことしですでに七回目を迎え、内容の充実、向上と相まって今後の発展が期待されるので、できるだけの援助をいたしたい考えである。なお社会の変化発展に対応して、豊かな県民文化の創造樹立をはかるために美術・考古美術関係の諸資料収集保存と展示のために、大分県立美術博物館を建設する。これは文化的大分県にふさわしいものとするため、県民の要望もあり、できるかぎり立派なものを建設したいと考えている。

次に県芸術祭の主催行事の一つである県民バレー「白鳥の湖」の公演、人間国宝生野祥雲斎竹芸展の開催をはじめ、他方における芸術文化活動の助長、促進にも力を入れたいと思っている。

文化財の保護の面では、本県が九州では福岡県についで多くの文化財を保有しており、質においても重要なものが集中していることにかんがみ、これらを守ることは国・県の義務であると考えている。特に駅館川大規模圃（ほ）場整備事業で破壊されるおそれのある遺跡などについては、早急に発掘調査を実施するとともに、その保護と環境整備を実施しなければならないものと考えている。

このたび「風土記の丘」として巨費を投じて歴史的史料館を建設しょうとするのもこの趣旨に基づいてであり、本年はまず、調査を実施することとして、その予算を計上した。ともあれ、文化財は、わが国の歴史・文化の正しい理解のため欠くことのできないものであり、広く国民的財産として後世に伝えるべきである。

芸術性の尊重　われわれは、先代の人びとから歴史的宿命として数多くの文化遺産を承継し、それを認識し、改良して、また次代の人びとに申し送りをしなければならない。

私は、美術・音楽など芸術・文化においても、鑑賞から創造へと発展させて、民族の伝統・歴史に対する正当な評価・自信といったものを獲得し、その上に立って新しい文化と歴史を創造すべきであると考えているので、過去の人びとが美的感覚をみがき、つくりあげてきた偉大な芸術性を尊重し、普遍的にして、しかも個性豊かな文化の創造をめざして、大分県の文化行政をすすめていく所存である。

自立演劇

望まれる底辺の拡大

尾　登　一　信

大分県の自立演劇は、高校に比して、きわめて地味ながら、「劇団造形劇場」のようなユニークな存在も混えて、現在、発展を期しているといった状態である。

他の地域でも同様であろうが、終戦後の混乱の中から、自らの文化創造をめざして結成されたが、大分県庁職員による「さぼんグループ」であり、それが発展して「つみ木座」となった昭和24年であったか、「つみ木座」の第1回発表として、「夜の来訪者」が大分市において上演され、それなりの評価を得たが、内部的な反省もあり、継続して発展できなかった。（なお「つみ木座」は再編成されて、現在にいたっている。）

また、九州電力などの職場でも、筌口氏他の熱心な指導者の先導で、演劇活動が起りかけたが、これも、指導者の転勤などで立消えになった。

次に芽を出したのが、地域の青年運動の一環として、青年演劇を巣立ったＯＢたちが、演劇サークルをつくることによって団結と文化運動を続けようとする動きであり、もう一つは、高校演劇を経験した者が、主として都市部に集って、芸術性を深めるためのサークルを結成するという形であった。

前者は、大野町の「奔流」、犬飼町の「あすなろ」であり、「あすなろ」は演劇が中核となって、町の文化会議結成へと発展していったことは注目に値する。後者は別府市の「しだか」がその代表であろう。「ガラスの動物園」など翻訳劇を取りあげ、公演も行なって都市的自立演劇の方向で努力している。

「劇団造形劇場」は、野呂祐吉氏主宰による、県下唯一のプロ劇団であり、土に親しみ生産に従事する中から、手づくりの演劇をつくりあげようという信念に根ざし、最初から生産の場である圃場と、生活の場である宿舎と、芸術創造の場である稽古場とを一か所に持って、その作品は県下の学校巡演という形で発表を続けている。

現状としては、「造形劇場」の活躍に比し、他は停滞しているといった方がいいかもしれないが、大分県は元来、演劇の素地のあるところである。今までの歴史をふまえ、芸振会議の協力も得て、地道ながら、徐々に底辺をひろげていくことを期待したい。

（県立森高校教頭）

公演記録をつくった造形劇場……野　呂　裕　吉

1　劇団の公演記録　・昭和43年8月19日の初日以来、本年6月20日までの公演回数605回、観客数254,000人、小学校巡回428校（回）、中学校150校（回）、高校20校（回）、一般公演61回、そのうち保育園、幼稚園が同時に観たのが77回、老人を無料招待したのが86回となっている。

私の当初の目標の$\frac{1}{2}$だが、創立間もない劇団の公演記録としては、演劇史上、稀な数字であろう。学校公演が多くて、一般公演の少ないのは、県内の演劇状況を示す一例ともいえよう。

2　格差の是正　・こうして毎年巡回を続けると、観る学校と観ない学校の差ができる。造形劇場は「大分県下の小中学、高等学校その他の施設をくまなくまわりつづける」目的をもっているので、格差のできるのは好ましくない。視聴覚教育における機会均等の立場から、できるだけ県内全校に観てほしい。宇佐市郡内小中学校40校では、この3年連続、宇佐教組が主催し、僻地校もくまなく巡回でき、第3番組まで観ている。先年野津町内の小中学校が校長会で話合って全校巡回した。このように、市町村単位または教組支部単位で一括巡回できるルートを築きあげ、この格差をなくすことが重要である。

3　小中学校演劇祭　・栃木県では県芸術祭の一環として、高校演劇コンクールとあわせて、小中学校演劇コンクールが行なわれている。これは地区予選と県コンクールの二段階に別れていて、多数が参加していた。大分県では、高文連主催の中央演劇祭が毎年盛会であるが、小中学校でも演劇祭がもたれてもよいのではないか。そうなれば巡回演劇教室もより効果をあげるだろう。

4　県民演劇の創造　・近年県民オペラ、県民バレエが創られているが、これらには創造の中核団体があるようだ。県内には、高校演劇、大学演劇、青年演劇、自立演劇、専門演劇、（商業演劇はひとまずおくとして）と様々なジャンルがあるが、県民演劇を創造する場合、その創造中核となるのはどこか。オペラもバレエも、常時練習を積み技術の習得に励んでいる。演劇において、日常の訓練を永続的にやれるとしたらその条件は何か。県民演劇人を養成する機関と、それを目指す人々が必要であろう。造形劇場は県民演劇創造の縁の下の力石にでもなればと考えている。

5　小劇場の必要性　・多くの演劇人が芝居の観客は 500人が限度だといいながら、実際には1000人以上つめこんでいることが多いようだ。別府でも先日2000人以上の高校生が入ったそうだが、これで芝居になるだろうか。

学校巡回の中央の劇団でも多数つめ込む。芝居の本質より劇団経理が優先する。造形劇場は 500人以下に分けて二度三度上演する芝居を大切にしたいからだ。市費県費で定員 300人位の小劇場ができればよいが、新らしい芸術運動は時に個人または集団の情熱的行動から生まれることもある。公費に頼らず、芝居のできる本当の小劇場を作る人々が出て来てもよいのではあるまいか外観より中味を大切にした小さな劇場が――。

（造形劇場主宰）

青年団演劇

全国的にも高い水準

佐　藤　至　良

戦後の荒廃の中で、青年たちは若い情熱を郷土づくりに向け県内至る所で青年団を結成した。文化、体育、生産など、多面的な活動が開始され、文化活動の一部門として青年団演劇が育って行った。当初、祭礼時のやくざ芝居から出発した演劇活動だったが、人生の目的を求め、地域の諸問題の解決を願う青年たちが新劇を手がけ始め、昭和20年代後年から30年代にかけて県青年団演劇は隆盛期を迎えた。山香、三佐、滝尾、東大分、杵築、玖珠と相ついで優秀作、問題作を全国青年祭で発表したのはこの時期である。当時の県青年団演劇は全国的にみてトップレベルに属したが、今一つの特色は青年団活動と密着し地に足のついた創造活動を続けていた事であろう。この行き方は現在も続いている。

昭和40年代に入って、いくつかの変化が起った。それまで青年団文化活動の一つの中心であった大分周辺の青年団が都市の進行におされて消滅し、郡部の青年団では過疎の故に多くの問題が発生した。しかしながら難苦の現在にあって、なお、青年団演劇の根は枯れてはいない。夏に開かれる青年文化集会では集った活動家から、地道に演劇創造に組んでいる各単位団の姿が報告されるし、秋に催される県連青中央文化祭では、各地域での演劇活動の成果が披露される。もっとも、昭和43年、犬飼玖珠・日田。昭和44年、国東・玖珠・日田・犬飼・直入・野津昭和45年、犬飼・日田・武蔵と最近、中央文化祭に参加する単位団は減少傾向にある。しかし演劇活動は県下各地に根を張っているのであって、資金不足、過疎に伴う団員の減少など悪条件の故に中央文化祭には参加できなかったが、地域では発表会を持っている単位団が多い。また本県の青年団演劇の水準は依然高く、昭和45年度、県代表として全国青年祭に出場した日田連合青年団は優秀賞を獲得した。それから注目すべきは全国大会に出場した単位団が出場後も活動を継続している点である。昭和44年度の県代表である犬飼が、翌年も県の中央文化祭で熱演した。他県では青年団活動とは無関係な、全国青年祭目あての、一発主義的な演劇グループが県代表として出場する例があると聞く。今一つ評価すべきは、地域を取りまく複雑な諸条件の中で、青年たちが当面する問題点を適確にえぐる既成の脚本が乏しいが故に、自らの手になるオリジナル脚本に取り組もうとする傾向である。

ともあれ情報化社会といわれ、他律的に押しながされ、疎外感を深めなければならない世相の中で、積極的に自ら考え、自ら創り、問題に立ちむかう大分県青年団演劇は貴重な存在である。　（県青年文化集会講師・青年団演劇批評委員）

胃腸科・循環器科

辛島内科病院

顧問　辛　島　絢　士

院長　辛　島　匡　士

大分市千代町銀ウラ　TEL ② 3053

高校演劇

定着した文化活動の中核に

尾　立　卓　道

戦後教育制度の改革が断行され、新制高等学校が発足し教科学習以外に特別教育活動の一領域としてクラブ活動が実施された。当初は種々に雑多なクラブが存在して生徒の自発性、創造性によって興味、関心、特技などにより自由に入部でき教師と生徒が一体になって混乱した廃虚の世相から何かを求めようという意欲に燃えながら、誠実に活動した。もちろん組織的地盤もあるわけでなくただいたずらにゼロから出発した純真さは高く評価してよい。

以来何回となく会合し討論をし、コンクールを開催していく間に諸般の情勢から全国的にもユニークな存在である高等学校文化連盟が結成され、その原動力は数多くの人々の蓄積と努力が実を結んだのは何といっても演劇であった。20余年の歴史が現在伝統として継承されているが最近の活動内容は

1　高校演劇講習会（本年が第19回になる）
2　中央演劇祭（本年が第24回になる）
3　顧問教師の創作劇研究会
4　西日本高校演劇コンクール大会への出場
5　全国高校演劇コンクール大会への参加

などに要約される。もちろんこれらは教師と生徒が一体となって劇の創造活動をやる部面と顧問教師のみの研修的要素の面とはあるが、いずれにしても演劇創造の過程を通して人間とその人間性の発見に視点をおき十分に成果のある活動を期している

しかし最近の教員の人事異動に伴なう現象から指導者の転出などによって部活動の停滞や廃部などのやむなきにいたる実態後継者養成の困難性、顧問教師の姿勢の問題など内部的事情からおこる問題点もある。また全国的趨勢であるが入部生徒が女子中心になって男生徒の物色に苦慮していること、普通科系の高校の演劇部の減少も高校演劇不振の一因でもあると思う。特に高校教育正常化の立場から今後かかる面からの打開をしていく必要性は十分に考慮する余地があると思う。

次に作品の立場から考察してみると高校演劇用の既成作品が乏しいことである。著名な何人かのきたえ抜かれた練れた作品もないわけではないが総体的には少ない。仮に創作劇という事で取組んでみても過去の経過をみていえることは、脚本のでき

ばえとその上演は別であって、脚本創作過程でもっとこれでいいのかという自分への自問自答、自分自身への告発のきびしさが欲しい。高校演劇の上演作品の甘さは、創作のモチーフが単なる生活の断片の羅列であったり、新奇なものを求める思いつきであったりしているところに問題がある。いわゆるマスタベーションであってはいけないのであって、よく作品に対しての分析を徹底化しキメ細かな批判する演出の目が絶対急務である更に組織上の問題であるが幸いにも本県には高文連という全国的にも内容の充実した組織をもっているが、この組織がエネルギーを発散させて芸術文化振興の一翼を担っていけるだけの活力でありたいと思う。しかし現状では県下演劇部の活動を全県的視野に立ってやっている学校は30校に満たない情勢である。各校の内容の充実は当然であるが更に底辺の拡大を図るとともに今後とも地道ではあるが定着した文化活動の中核として飛躍したいものだと考えている。　（県高文連演劇部長）

人形劇

妥協のない一級品を

安部康英

現在県下における人形劇サークルは、その活動、規模の大小はあっても各市町村において15余サークルを数える。そのメンバーたるやいずれもアマチュアであり、同好者の集合である。

各地域ごとに活動していたこれらサークルが数年前研修、交流の意味から「県人形劇サークル協議会」なるものをつくった初代会長は県人形劇の草分けともいうべきピッコロ座の佐藤憲次氏である。

この「県人協」、毎年大会を県下各地で催すことになり県下を一周しことし大分市で行なわれる。各サークルの作品を紹介し、その研修に2日をついやす。また、この組織はそのまま全九州の人協の一部となりこれも各県もちまわりでその事務局、フェスティバル開催地を受持っている。

県下各サークルの活動としては大会場での自主公演、学校、子ども会、施設での公演など主に日曜日を使うもの、連休にいたっては離島、山間僻地での公演と好きなればこそのフントウぶりである。また県下によびかけての実技講習会や県南3サークルのように合同公演をもつ例もある。

これら県下人形劇界の共通の課題としては練習時間、場所、人材、経費などなど、挙げれば限りがない。同好の集団であるため人員の確保に手をやく、まして作品完成寸前でのやむなき変動に至ってはもはやお手あげである。

また、人形という媒体を通しての観客への語りかけのむずかしさ、舞台上へは直接人間の顔は出ないことからくる安易な妥協。

これらサークルのメンバーはいずれもアマチュアである。各サークルの作品を多く見せてはもらうが〝アマチュアだからこれでいい〟といったような感じを見受けるのは私ばかりではなかろう。同好の集まりであるからといえども舞台にのせ、観客に見せるからには〝一級品〟であってほしい。そこには演出にあたる者の姿勢、能力が大きく問われよう。ところが、いかに演出者の意図、能力がすぐれていようとも、人形、操作、台詞装置などがそれを十分に伝え得ない場合もある。むしろ、その場合の方が多いのではなかろうか。

人形を操作し台詞をしゃべる者の能力の不足のため、〝二級品〟に甘んじなくてはならないということである。

子どもたちの目は舞台上にある。その下での操作する者や舞台ウラへの配慮など、もうとうない。

それ故に子どもの目、耳、心に語りかけるのは舞台がすべてである。

私ども人形劇人はプロにはないアマチュアだけの良さを見出し、プロに学ぶべきは学び、伸びていく子どもたちへ心のカテを安易な妥協のない〝一級品〟を今後の研修と情熱とで創りだし、与え続けていかねばならない。

（県人形劇サークル協議会事務局長）

舞台美術

進歩と努力のあと

古林茂三郎

県下の舞台美術の現況ということになれば、青年演劇、高校演劇が対象になります。いずれも年々非常に進歩と努力の点は見うけられますが、必らずしも洗練、完成されたものとはまだ申されないと思います。これも限られた製作費の中で非常に苦労されていることがわかります。

一つの芝居を発表するために一番経費のかさなるのは舞台美術だからです。しかもその一番問題に上げられなければならないはずの舞台美術が反対に一番軽視されがちになっているのではないかと、いつもそう感じています。

芝居の本筋を伝える手段として一番重大な大切な仕事であります。製作に当って、もっと慎重に取組んでいただきたいと思います。

と申しましても、商業劇団に見る舞台美術はその商業性のためにある時はオーソドックスな豪壮華麗、細密描写に終始し、

松本小児科医院

別府市北浜2－7
TEL　3－5215(代)

または抽象的、幻想的であったり、芝居の本筋を伝える手段として精巧を極めているような仕事はとうてい望めないことであります。限られた予算の中で選択された素材を集め内容の要求に従って最も有意義な配置に据えることでその美しさを表現することができると思います。

この舞台美術の中でも一つ大切な役割に照明があります。照明なくして舞台は躍動しないといってもいいでしょう。装置、演技で表明できないものを照明は表現してくれます。したがって十分な効果を望むためには、ある程度の照明器具、技術などが必要となってきます。

（県美協会員・NHK大分放送局美術製作委員）

○県演劇祭の出演団体決まる

7月10日、大分市に関係者が集まり次のとおり決まった。

ことしは一般参加で7チーム。上演時間8時間で夜間公演まで行なうことになった。

したがって、夜間公演に限り、一般対象に整理券 100円を発行、学生は無料とすることになった。

8月20日まで整理券、パンフレットの原稿作成。

8月20日レイアウト

9月13日　配布計画完了

次回スタッフ会議は9月13日（月）14：00に決まった。

開演時刻	終了時刻	出演団体	演　目	上演時間
9：00～11：00		①高校盲学校	「かっこ」	1時間
		②つみ木座	「夕　鶴」	1時間
13：00～16：00		①杵築高校	「変　身」	1時間
		②青年団	「未　定」	1時間
		③糸　車	「未　定」	1時間
18．30～21．30		（①劇団しだか蔵）合同	「密の味」	2時間
		②劇団造形劇場	「吉四六」	1時間

○県芸術祭の行事が決まる。

7月20日県芸術祭運営協議会が大分市大手町会館で開かれ10、11月に行なわれる第7回県芸術祭の主催、参加行事を次のとおり決めた。

主催行事

1　県民バレエ「白鳥の湖」公演

2　人間国宝　生野祥雲斎　竹芸自選展

3　演芸（7団体）・舞踊（1団体）・音楽（2団体）文芸（3団体）の各部門別集中行事

参加行事

大分現代美術動向展など42件

ことしは行事総数51件で例年以上に多く特に地方「文化祭」の新しい参加が目立った

波紋　日名子信行

劇団「つみ木座」が発足して、ことしで15周年になる。

当時、50名程いた座員も、現在では、たった1人という寂しい現実である。

発足後、3、4年の間にほとんどの座員が入れかわり、現在の「つみ木座」を支えている人たちが新しい力となって、今日まで引っぱってきたのである。

彼等は当時、高校や大学を出たばかりの、元気な若者たちであった。その彼等が、結婚し、子を持ち、その子どもが大きい子で、小学校の四年生にもなっている。その子どもたちが、ことしの十五周年記念公演で、親たちと一緒に出演することになった。私たちは、このたくましい親たちと子どもたちを集団にもっていることを誇りに思っている

15年の歴史の中で、大きい波、小さい波にふりまわされ傷つけられて、ここまで歩いてきた。黙々と歩いて来たおかげで、少しだけくらしも楽になってきた。自分たちの芝居を見てくれる（一緒に芝居をつくってくれる人たち）人々に支えられ、独自公演を何の不安なくやれるようになった。

私たちの仲間は、自分の意志と力で、その足をたたせ、その足を歩かせることを知っている。「たとえ貧しくともどんなに苦しくっても、未来への憧れをすててはならない」

いま、大分県全体で、演劇に対する新しい波が高まりつつあることは、私たちにもはっきり感じられる。けれども私たちは、無意味なくり返しはやらない。すべての集団が一部の人間によって、牛耳られ、ふりまわされ挫折することなく、演劇という芸術を通して、若い力を正しく育て、その力が新しい時代を担う事を祈りたい。集団の中で何かをやりたいと思うならば、その集団の掟を知り、育てようとする共通の目的を知り、正しく創りあげねばならない。

私たちの劇団には、歴史の中で学んだ多くの糧があります。「困っている集団で、その糧を必要とするならば、いつでもほしいだけ分けて差上げられます。そうして生きて行くことが、私たちの劇団をより良くし、私たちの住んでいる郷土の芸術を振興させる正しい行き方だと信じているからです。この気持を忘れない限り、私はその未来に何の不安も感じないことを信じているからです」

（大分県アマチュア演劇連盟協議会議長
劇団つみ木座代表）

<一口提言> 〝大分県の芸術文化に関すること、どんなことでも

世は正に情報化時代、データーを大切に！何事によらずやれば出来るものである。出来ないのは、やらぬからではないでしょうか。一年の計画に従って、各自責任を以って、やろうではありませんか。組織の力も実践力にあり、其の努力した程度に結果は現れるものと存じます。「芸振」の発行を後れぬ様出来たら直に発送下さる様お願いします。（別府民踊百踊会／別府市駅前本町1[redacted]／江藤豊南）

「芸振」ではもっと高いレベルの記事及芸作を掲載するか問題を提起している作品の批判を採用してもらいたい。作者の真の苦労がにじみ出ている作品を注意するように願いたいと存じます。詩で云えば最近作品がイーザーになる傾向が多いと共に私小説的になる悩みがあり伸びと広がりがありません。（門・誌友会／東国東郡国東町／藤井国武）

御申越しの件は有能な理事諸氏の御発意を切望いたし度く悪からず御寛恕伏して御願い申し上げ候。（別府芸能文化協会／別府市光町[redacted]／藤田筑山）

一日でも早く県立美術博物館の建設を期待したいこの実現こそ我等県民の念願であり大分県芸術文化の向上と推進を一挙に具現出来るなにものでもないと信じます過去数年来の建設期成会の運動もありながら他県に遅れをとり未だに文化の殿堂がなく大分県民としてまた県芸振会議としても実に淋しく残念なことです。（大分県三曲協会／大分市都町[redacted]／遠藤梢山）

現今我国民の思想悪化にともない人道を全く無視せし行動多く此儘にては我国の将来が不安極るものとなるは必定と思う之を救うには各自の思想善導にまつ事が先決と思慮す吟道こそ情操陶冶に大なる役割をなす此の大切な心の修練となる詩吟の道を当局は重要視してない事に悲しく思ふもっと重要視して大きく取り上げてほしい。（社団法人日本詩吟学院岳星会／別府市北浜[redacted]／後藤岳星）

あまりにも私欲が支配しすぎている。また文明が一部の人の善意と人格に支配されすぎてきた。県や市町村に文芸課（？）を設ける位の勇断が望ましい。先進資本主義国や社会主義国の文芸に対する態度を見よ。川はゴミ捨て場という日本人の陋習を捨てさせることなどその一例。文芸を住民運動へ。それが福祉にもつながると思う。（邪馬台発行所／中津市天神町[redacted]／清原敏孝）

若い人々に、芸術文化への理解と興味そして参加を強力に呼びかけたい。明治維新の芸術文化は青年の手によって切り拓かれたが、昭和維新の若者たちは歎かわしいほど芸術文化への関心が薄い。戦後の社会や教育にも問題があろうが、われわれこの道に在る者たちが、何とかして彼らに眼を開かせるてだてを講ずる必要を痛感する。（歌帖社〝短歌〟／大分市城崎町2丁目[redacted]／下郡峯生）

二つ言わせてほしい。その第一は歴史的にふり返ること。淡窓や竹田のような文人墨客が多く、すぐれた作品を残している江戸時代から明治にかけての大家の業績を学びたい。第二は民間に残る芸能で、放っておけば亡びてしまう。それは県下あちこちにかなりある。埋もれているものは掘り起し、亡びゆくものに活を入れたい。（佐伯史談会／佐伯市大字稲垣／高木嘉吉）

未来の文化と芸術を築くものは、子どもたちである。子どもたちへの文化と芸術を高め、広めることによって文化と芸術の発展がある。子どもたちの豊かな情緒を育てるのは大人の役目であろう。子どもを主体に考え、常に子どもが活用できる「児童会館」が、大分県にもぜひ欲しいものです。大分県の芸術文化振興のためにも。（大分県人形劇サークル協議会／大分市浜町東三組／二宮啓介）

①美術館を分大経済跡から県体育館の位置にかえることを今年中に具体化して、来年は必ず着工に踏みきること。②県一番の歴史と規模を持つ文化団体、県美協が、名実ともに一つの運営と行事を行なうためには現行の予算では無理。補助金の増額を切に要求する。③県は文化行政についてもっと計画性をもち具体的構想を明らかにしてほしい。（大分県美術協会／大分市大道町[redacted]／宮崎豊）

同種単位団相互の競争意識によるせっさ琢磨、これに伴っての向上、このことは単位団の内部にはね返って会員相互の努力意識をかき立てる。そして県の段階では各単位団の特徴を充分発揮出来得るように単位団に時と場所を適当に与へること県の芸振が一日も早く連絡機関から脱皮して本来の目的？にまい進してほしい。（玖珠俳句会／玖珠町大字森[redacted]／佐藤峻峰）

末端への滲透を図れ／芸能文化は、特定の個人や団体の独占であってはならない。底辺をひろげ一般県民の各層にまで掘りさげねばならない。そのための政治力指導力の発揮は勿論だが適正な予算措置をも考慮し、地方の公民館活動を活発にし、会館等を自由に解放して場を与え、マスコミが強力にバックアップする。（淡窓伝光霊流日本詩道会／大分市新[redacted]／深田光霊）

各部門別に権威ある大分県文学賞の設定を望む。（大分県歌人クラブ／別府市西野口[redacted]／田吹繁子）

文芸総合誌なるものが大分県から発刊されることを望んでいる。できるものなら「芸振」がそのようになることを一番望んでいる。また、例会などの会場が利用できる文芸会館のようなものが建てられるようにねがっている。県美術館ができるよう

よいミ 今一番言いたいこと

県文化団体名簿に記載されている団体全部にアンケートを求めた／字数は 150字／返事のあったのは 30 団体／回答順に記載／文章は 150字をオーバーしたものもあったが、原文のまま発表した。

だが、県文芸会館とはまたよいではないか。（歩道短歌会大分支部／大分市千代町１丁目[redacted]／上田耕司）

まだ大分県は芸術的水準が一般人の中に低いと思はれますので、これから私達芸術を志す人達で催し物をしたりしてアッピールして行くより他に道はないのではないでしょうか。幸いに県の方でそのようにしている傾向ですので大いに賛同致しております。（若柳妃秀会／宇佐市東大堀／若柳妃秀）

折角の御依頼でしたので、いろいろ考えて見ましたが、結局書かねばならぬ事が見当りませんので、今回はお許し下さいます様、不一。（臼杵鷹俳句／臼杵市二王座／金田眸花）

芸術文化とは何か。判然というのはむつかしいかも知れない毎年どこかの県で開催されている国体は、特定の選手がスポーツの技を競うのであるが、開催県では県民あげてバレーや歩こう会、体操など体力つくりをすすめている。このように芸術文化も鑑賞、創作、理解を含めてすべての県民の関心を高めさせたいものだ。（大分県職場音楽連盟／大分市長浜町３丁目大分商工会議所内／草本利恒）

物質文明が進めば人間は機械化される。文明は進んで欲しいが機械化されたくない。その意味からも最近全国的に「人間尊重」や「人間回復」が大きく叫ばれてきましたが、このためには人間情緒を育てる文化を理解し育てて欲しい。勿論、行政をはじめ、教育、財界を含めたすべての県民に、このことを切に望みたい。（大分県庁職員吹奏楽団／大分市大手町３丁目１－１／中野幸和）

芸振会議に参加を／二豊路の唯一無二の芸振会議と聞いていたが、加入者の名簿を見てちょっぴり淋しさを感じた。定形俳句をたしまむ人々も 600人と聞いているが。どこに責任がありどこの努力が足りないのか知らないが、もっと加入を呼びかけ多くの方々が紙上で見られるようにしたいものである。（大分芹俳句会／大分市生石町／平田寒月）

地方毎リーダー養成の急務を痛感する。文化活動は精神運動にも通じ時の権力に利用される危険がある。さりとて我々は活動家だけの享楽は望む処でない。一般大衆に享楽の機会を与へ健全娯楽の方向に大衆をリードする位の意気込みが望ましい。そうした意味からもリーダー養成が如何に急務か、自明の理と思われる所以である。（挾間町文化協会／挾間町大字挾間城畑／丹生拓木）

○雨宿りごおんと撞いて叱られる／のどかな時代のユーモア○本降りになって出てゆく雨宿り／いつの世も変えられぬ人間性。世が高度成長に、公害、ヘドロ、スモッグ、コンピューターがものいう世になればなるほど、息ぐるしい世に、おおらかでなごやかな人間風詠の血のめぐりの詩、川柳の役割を更に活躍させたいのです。（大分県番傘川柳連合会／別府市[redacted]／内藤凡柳）

謡曲、詩吟、民踊等個々のグループの連絡と共同研究の目的で組織した連盟。発足して間もなく年２回共同の発表会を開き研修反省の機会としている程度の活動。将来のあり方と運営について指導が欲しい。県芸振については内容の認識も不十分で意見を控えますが、県下各地には未組織の芸能グループが多いのではないかと思うのでその組織化の指導も希望します。（緒方町芸能文化連盟／大野郡緒方町馬場緒方公民館内／三代博）

展覧会場の確保には全く頭を痛めている。デザイン展だけに動員数の高いデパートを選ぶのが最も好ましいが、なかなか会場がとれず困っている。今年はかろうじて秋１回にとどまった将来ますます会場主側の情勢変化も予想され、会場難はつのる一方であろう。できれば県芸振会議の存在をフルに活用し事態を処理したいものである。（大分県宣伝美術会／大分市荷揚町[redacted]／波多野義孝）

俳優の極地は相手役が演じやすいように演技出来た時に感じられる。人間は人様のお役に立った時本当の幸福を味える。現代は自分本位の生き方が多い。人の為、世の為につせくと私は若者たちに伝えつづける。芸術の永遠のテーマ「人間如何に生きるべきか」古くして新しいそんな教育を求め、自らも探究しつづけたい。（劇団造形劇場／大分市大字[redacted]／野島祐吉）

私もふくめてのことであるが、プロ意識が不足していると思う。死にものぐるい――のところがない。人生を、これひとつに打込んでいるのだから「ここぞ」と言うものがなくてはならぬ。その意気込みが感じられない。中途半端で、弱腰で、「それで飯を食っている訳ではない――。」と言った他所他所しさが匂っている。(短歌・げっしゅう社／豊後高田市／村上冨六)

日舞の世界は封建的、貴族的因習の中にだけ存在するようにいわれますし、それに安住する傾向が強いのも事実です。しかしこれを厳しく反省し、古典を生かし乍ら如何に新しいものを創造するかを日夜真面目に取り組んでいる仲間もございます。一口に日舞という先入観で片付ける事なく、芸術という視点から見守って頂き度いと思います。（大分県日本舞踊連盟／大分市都町２丁目／藤間小伊松）

県民バレエ「白鳥の湖」が成功しますように。これは大分県洋舞踊協会員全員の心からの願いであります。幸にも共同主催の皆様方の温いお力添えによって準備がすすめられ、いよいよ練習にも熱がこもり、八月一日入場券発売の予定でございます一人でも多くの方々がご覧下さいますようご協力をお願いいたします。（大分県洋舞踊協会／大分市金池町／平瀬克美）

芸術祭は鑑賞のみに終らず、向上に結付く批判をする方がありますと主催者は色々の面でプラスになります。専門的評論家でなくとも批判をしたことに責任が持てる方を何人かおかれることに検討願います。単なる行事のくり返しだけでは芸振会の意図に反することになるので、終了後に反省の場を持つことは明日の向上発展に結付くことになるでしょう。（創明音楽会九州支部／大分市中央町３丁目近[redacted]／田中絹枝）

もっと図書館、博物館を地方に設置する運動を／私は毎年全国博物館大会に出席しますが、長野県などでは公私立の美術館図書館、博物館が殆んどの市町村に設置されています。図書館は38館、博物館９、美術館は県立の外上田の山本鼎記念館、穂高町の緑山美術館など地方の特色を生かしたものがあり、県の文化水準の高さを物語っている。大分は図書館８、博物館的なもの、臼杵、竹田、別府、淋しい限りだ（臼杵史談会／臼杵市／高橋長一）

芸術文化を網羅できる殿堂（文化会館）の設立に関し賛意を表し、その具体的な進展を関係者に望む。殿堂の設立が創る側にも受け入れる側にもその活動が生気をとりもどすための一つの要因になることはまちがいあるまい。だが活動の場を拡げようとする運動だけではかたておちになるのではあるまいか。いかにすばらしい施設や環境が設定されようと、それを人間的なものとして質的に高め得る内容の準備がない限り、無用の長物として残るということも考えられる。僕らはそうした問題意識に立てる者こそ殿堂設立の内容的推進者になれるものと信じる（新世紀群／大分市中判田高江／池辺庸寛）

消息

◦陳情

本年度文化室の設置を契機として県芸術文化振興会議では６月８日知事や県議会議長、県教委などへ〝産業と文化併進の政治〟をおこなってほしいと陳情した。なお、陳情書は下記のとおりである。

◦第３回九州沖縄芸術文学賞（小説）募集中　８月31日締切

◦第３回九州沖縄芸術文学賞地区選考委員決まる

・米田　貞一（県芸術文化振興会議会長）・今戸公徳（民潮酒舗経営・放送作家）・長谷目源太（県総務部秘書公聴課課長補佐・九州文学同人）

◦大分県短文学大会開催される。８月１日(日)豊泉荘午前10時

◦第３回九州交響楽団巡回公演決まる。９月16日（木）日田市民会館　入場料金　A席600円　B席400円　C席300円

◦第３回九州沖縄歌舞公演　11月25日（木）　津久見市民会館　A席500円　B席300円

陳情書

大分県における産業経済の発展は近年まことに目ざましいものがありますが、県民生活を真に豊かにし、明るく住みよい郷土をつくるためには、産業とともに、文化、芸術の振興がなければなりません。

大分県は昔から梅園、万里、竹田といった学者、芸術家を数多く輩出し、現代も文壇、画壇をはじめ、工芸、音楽界など、第一線で多くの県人芸術家が活躍しておりますことは、大分県人の文化伝統の高さを示すもので県民の誇りとするところであります。

私ども県芸術文化振興会議は、県内の文化団体を打って一丸とし、先人の秀れた文化を伝承するとともに、今日に生きる県民文化の幅広い振興に微力を尽して参りました。

県におかれましては、本年度新たに文化室を設置されましたが、このことは産業と文化併進を第一義とする県政構想の現われであると信じ、まことに喜びにたえません。

そこで、この機会に、この面の施策をもう一歩強化するためぜひとも左記の事項の早期実現をお願いいたします。

記

一　芸術文化団体への育成補助について

健全な芸術文化団体には、ぜひ補助金の交付あるいは増額を図られたい。

特に、芸術文化振興会議は大分県における総合文化団体であるので、本年度ぜひ増額の予算措置を構ぜられたい。

二　芸術教育振興について

芸術文化の基盤は、学校教育、わけても芸術教科にあります。県下学校教育の現状をみるとき、あまりにも芸術教科が軽視されています。

そこで、小、中、高等学校に、音楽、美術等の専任教員を配置し、芸術科の授業時数を増やすとともにクラブ活動を活発にするよう措置されたい。

三　県立美術博物館の早期建設について

県立美術博物館建設促進の運動は、美術家や一部の文化人だけでなく、いまや県民の声として大きく展開されています。九州でも美術博物館のないのは大分県だけであり、一日も早く着工されるよう措置されたい。

四　文化室の充実、強化について

県全体の芸術文化を振興させ、文化財の管理、保護を強化するために必要な定員増と、財政措置を講ぜられたい。

昭和四十六年六月八日

大分県芸術文化振興会議
会長　米田　貞一

殿

編集後記

この号は<県演劇>特集であるが、他のジャンルに比較して内容がやや少ないので、余ったスペースを利用して、当面している県芸術文化の諸問題をいろいろな角度からとりあげてみた。

特に立木新知事の県芸術文化行政に対する姿勢と、一口提言に出ている県民関係者の声、それに対する芸振会議からの陳情書などを比較ご検討ください。

第８号は９月発行、<県舞踊>特集として、洋舞、日舞の現況と課題、県芸術祭関係など編集する。